

廣島市一班



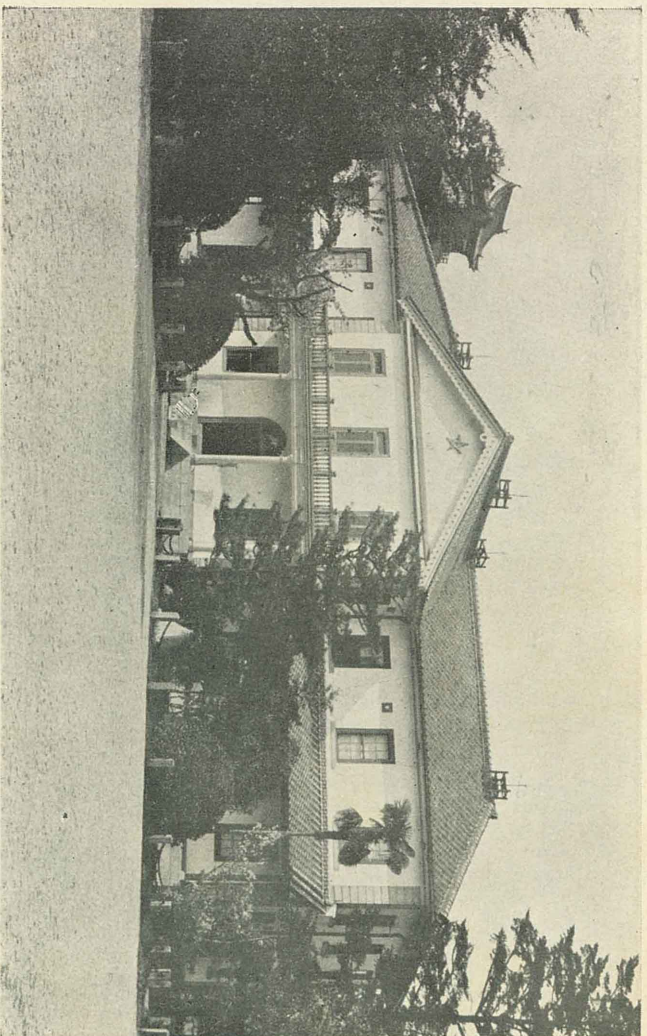
廣島市

4  
広島

市 政 一 班

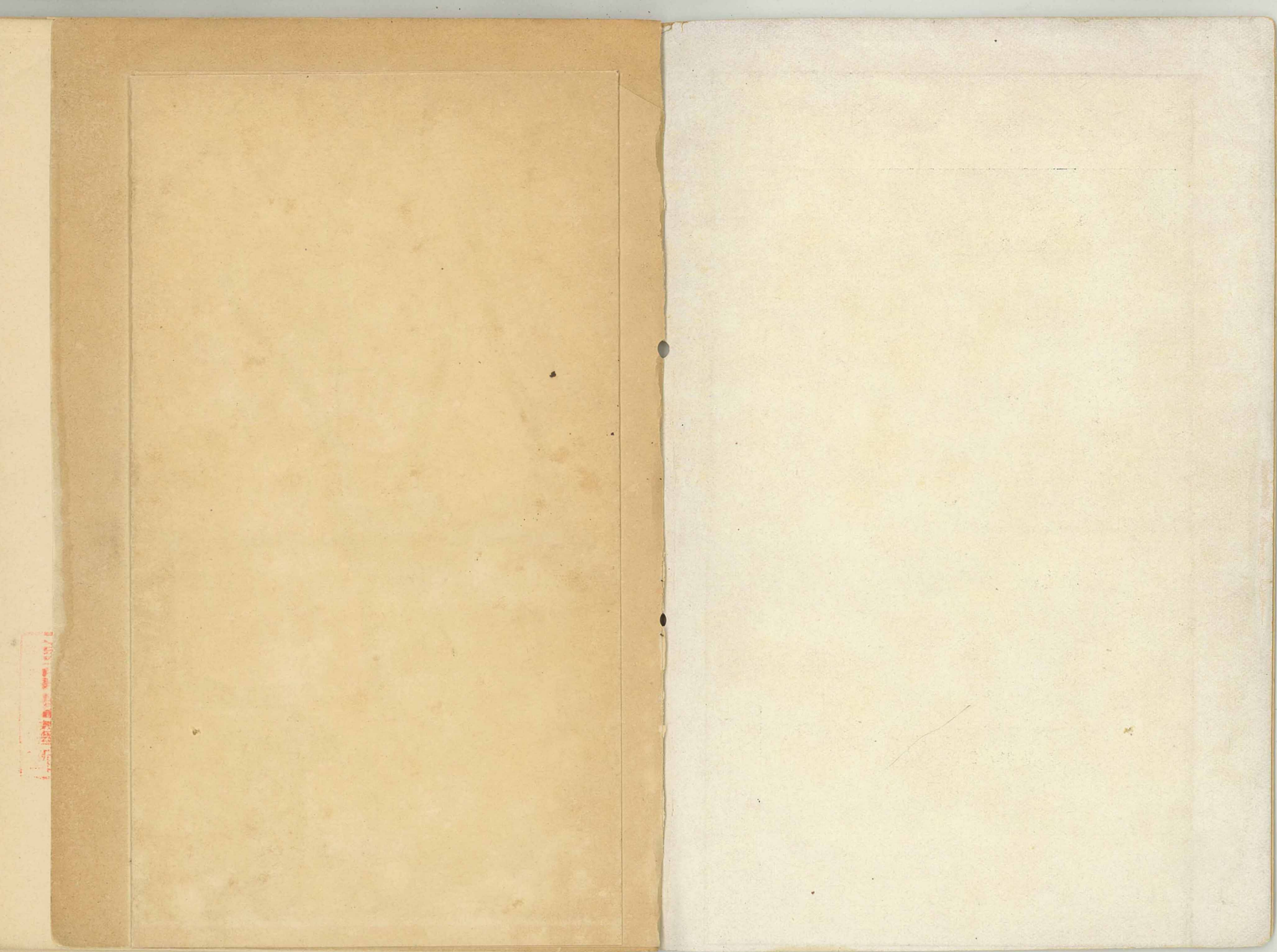
---

廣 島 市



大 本 營 跡

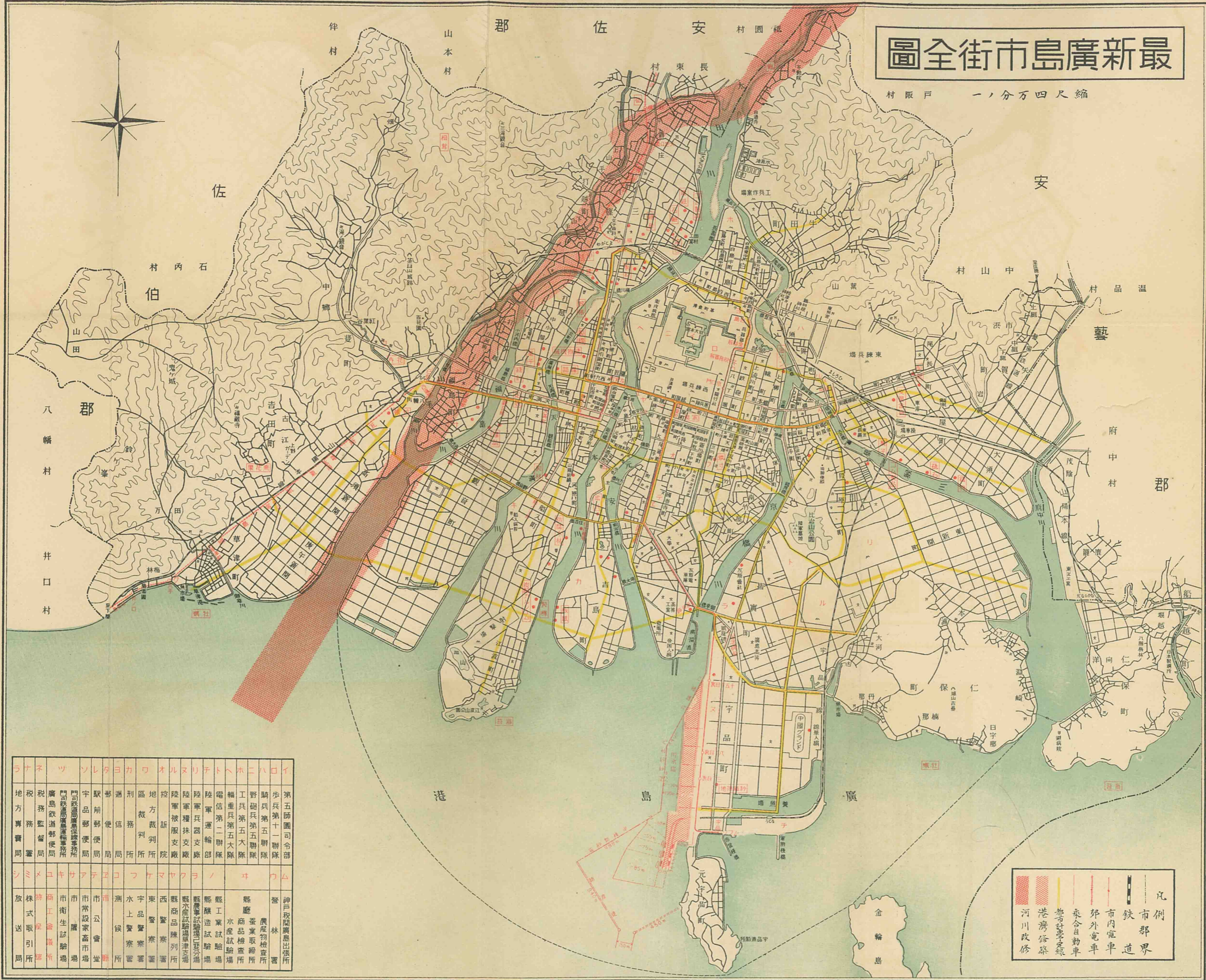
1891年 大本營跡



1000

# 最新廣島市街全圖

縮尺四萬分一 戶限村



ラ	ナ	ツ	ソ	レ	タ	ヨ	カ	ワ	オ	ル	ヌ	リ	チ	ト	ヘ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
地方	税務	税務	廣島	門司	宇品	駅前	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便	郵便
專賣	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督	監督
局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局
シ	ミ	メ	キ	サ	ア	チ	エ	コ	フ	ナ	マ	フ	ヨ	ノ	ハ	ニ	ハ	ロ	イ	ム
放	株	式	株	式	株	式	株	式	株	式	株	式	株	式	株	式	株	式	株	式
取	引	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所
局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局

凡例

- 市界
- 市內電車
- 市外電車
- 乘合自動車
- 都府道
- 港灣修築
- 河川改修



十一、公	園	四三
十二、公	會 堂	四四
十三、舊御便殿及記念館		四五
十四、社 會 事 業		四七
十五、都 市 計 畫		五三
十六、道 路 事 業		五四
十七、整 地 事 業		五五
附		
市内の名所舊蹟		五七
近郊の名所案内		六一
廣島市街地圖		初

## 廣島市政一斑

### 一、廣袤及面積

本市は中國地方の中樞太田川の清流瀬戸内海に注ぐ河口に造成せられた三角洲上（東經百三十二度二十七分十六秒、北緯三十四度二十三分）に介在し南は廣島灣より瀬戸内海に瀕し其の他の方面は概ね丘陵及山岳地帯で東西十二軒二二七、南北九軒六〇一其の面積六十九平方軒八八〇にして本邦都市中第六位に在る、之を明治二十二年市制施行當時に比較するときは約二倍半以上の膨張となつて居る。今是に市域擴張の年月を表示すれば次の通である。

明治二十二年四月	二六・九五四平方軒	市制施行當時
同 三十七年十月	二七・三〇〇平方軒	元宇品町（安藝郡仁保島村宇品島）合併
昭和四年四月	六九・八八〇平方軒	仁保町、矢賀町、牛田町（安藝郡）、三篠町
		（安佐郡）、己斐町、古田町、草津町（佐伯郡）合併（村名は合併と同時に町名に改稱）



# 二、戸口

都市生活を量の上に表示する代表的のものは人口である、人口調査に市勢上關係の深い男女別の數的關係を觀れば女九十七に對して男百の割合を示し之に依り人口の本市集中の動向を想像することが出来る、之を職業別より觀れば其の大半は所謂商工業人口であつて商工業を以て市是とし之に依て大産業都市建設に躍進しつゝある本市趨勢の一斑を窺ひ知ることが出来る。

昭和七年十二月末現在に於ける本市の公簿人口及戸數は次の通である。

戸數 七三、六〇七戸 前年より増加數 三、一三九戸  
人口 二九四、一〇〇人 前年より増加數 五、一二二人

内 男 一四九、三〇八人  
女 一四四、七九二人

尙市制施行以來に於ける戸數及人口の累年比較を表示すれば左記の通である。(五箇年毎)

年次	戸數	人口		摘要
		男	女	
明治二十二年	三三、八三四戸	四一、三九〇人	四一、九七七人	八三、三六七人

同二十七年	二五、八六六	四八、四四〇	四三、四三二	八六、八七二	
同三十二年	三二、一四五	五五、二〇八	五五、五五三	一〇七、七六〇	
同三十七年	四〇、八〇八	七〇、三九六	六五、六六六	一三六、〇六二	戸數、人口ノ増加シタルハ元宇品町ヲ合併シタル結果ニ由ル
同四十二年	四三、四七八	七三、三三九	六八、八五二	一四一、〇九〇	
大正三年	四七、三九〇	八四、五六六	七六、四六九	一六三、〇三五	
同八年	三九、五三四	七七、〇三六	八七、三三二	一五五、四一八	
同十三年	四五、三九九	八九、三六三	八七、八八八	一七七、二五〇	戸數、人口ノ著シク増加シタルハ隣接七箇町村ヲ合併シタル結果ニ由ル
昭和四年	六六、八六〇	一三三、三九〇	一三五、九四八	二七三、三三八	

職業別戸口は次の如くである。

職業分類	本業		副業	
	戸數	人口	戸數	人口
商業	一九、一六九	四〇、四九六	三、六六六	四、五三三
工業	一七、八一九	四一、八五五	一、六七七	二、六三三
公務自由業	八、六五六	一七、八三七	五八二	八六〇
交通業	六、四三八	一四、一五五	一九一	五九
農業	三、七九三	一〇、四一八	四、七三三	六、九八五
計	四八、八〇〇	一〇七、七六〇	一七、一三三	二〇、一〇一
計		一二四、八九八		二六、一〇二



水産業	一、四六七	二、三〇〇	二、二一一	五、一三三	八二六	九〇七	二七五	一、六三三
鑛業	一六五	四四五	三五〇	七七五	二二	五七	三八	九五
其他有業者	三、九二二	八、一七一	一〇、六六一	一八、八五三	四六九	七三三	四三三	一、二六五
無職業者	一一、一七九	一六、七〇二	二二、一七二	三六、八二〇	一	一	一	一
計	一六、七四三	二九、八〇九	三五、二〇三	六一、五八〇	一、一〇二	一、七〇五	一、七四一	二、九六三

四

### 三、市の行政機構

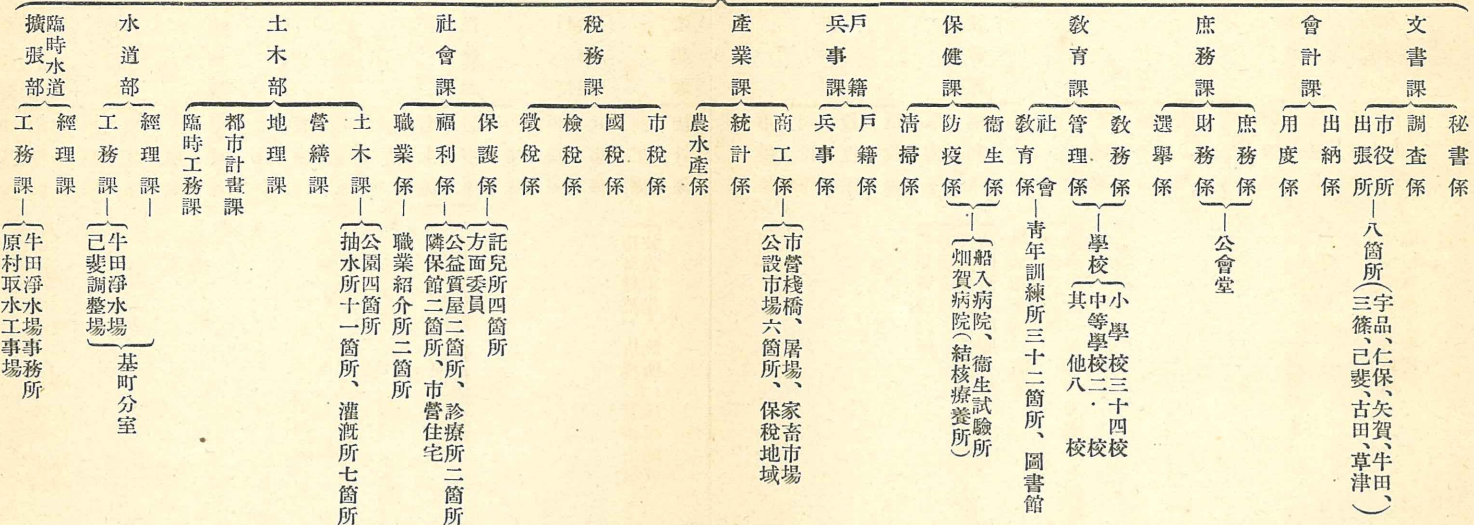
市政事務の圓滑なる運行發展は延ひて都市發展に重要なる關係を及すを以て常に之が圓滿なる運用を期する爲其の組織編制は從來幾多の變更改善を加へ來つたのであるが時勢の推移と事務の實質系統等に鑑み現在に於ては市長、助役、收入役の下に十六課を置き之に二十五係を配し、土木、水道關係に部を置き更に水道擴張事業に臨時水道擴張部を置き其の下に二課を配し事務の統一と能率の増進を圖て居る。

而して之に従屬する吏員及雇傭員は總數六百三十七人である。

今其の系統の概要を示せば次の如くである。

廣 島 市 政 行 長 助 役

收入役



職員		(昭和八年十月九日現在)	
市長	一	嘱託	六
助役	一	雇	四四
收入役	一	工手	一二
部長	二	隣保館	二
主事	一四	保姆	一六
視學	三		
技師	八	守衛	七
市醫	一〇	看守	七
技師補	三	運轉手	一三
書記	三一七	電氣工	二
技手	五四	機關工	二
機關手	七	交換手	四
衛生監督	二	給仕	三三
獸醫	二	使丁	八三
調劑員	二	園丁	四
産業技手	一〇		
衛生巡視	二二		
書記補	二七		
技手補	一六		
計	四〇二		
合計	六三七人		
備考	雇傭人八月給者ノミヲ表		
示セリ			

#### 市役所出張所

本市は昭和四年四月隣接七箇町村（仁保、矢賀、牛田、三篠、己斐、古田、草津各町村）を合併したる際其の町村の舊役場を以て市役所出張所とし其の管轄区域内に於ける市事務の一斑を執らしめたのである、同時に従來の宇品市營棧橋事務所に市役所宇品出張所を併置し其の管する一斑事務を執らせることとしたのである、然し之は過渡期に於ける應急的施設に過ぎないので之が改善は將來行政組織の改正等と相俟て考慮せられる問題である。

#### 町總代

市政上多大の援助を爲し自治制の運用に直接間接に利便を爲しつゝある本市の町總代制度は廣島藩政時代以來の歴史を有して居る、本市は大正八年三月町總代設置準則を設定し之に依て市内各町に町總代、同副總代を置き現在百二十二箇町總代六百十八人の町總代、同副總代がある、之が日々行政百般の示達及納税の督勵其の他町内諸般の事務を統轄し町の施設改善に努力して居る、更に大正十三年四月町總代聯合會が組織せられ益々其の機能を發揮して居る、因に早晚町名改稱實施に依り町數百九十五町に増加することとなつて居る。

#### 市廳舎

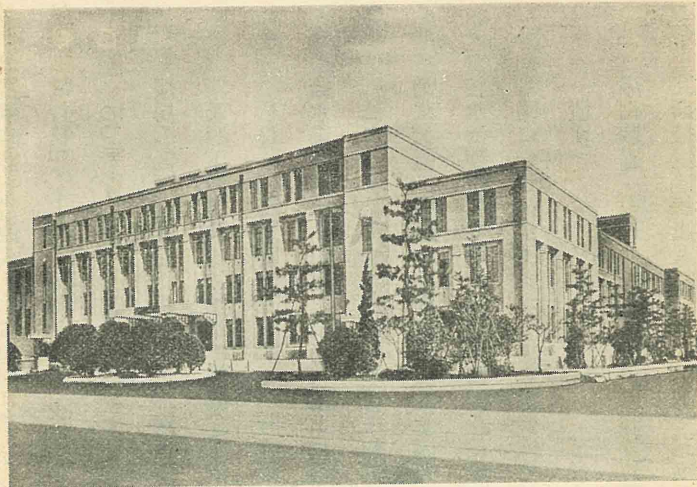
市廳舎は當初中島新町に在つたが本市地域の擴張と人口の増加に依り市事務極めて繁忙となり廳舎の狹隘を來したので改築の議起り大正十五年九月元廣島市立高等女學校敷地を以て廳舎の

建築敷地とし移轉改築の工を起し總工事費七十五萬圓を以て近代式鐵筋混凝土五階建現廳舎の竣功となつたのである。

市廳舎の建築工事概要は次の通である。

廳舎の構造は耐震耐火的の鐵筋「コンクリート」造にして外部は「リシン」塗仕上げとし其の腰部は本縣産の花崗石張及人造石仕上とし屋上は議場の部分を「アーチ」形とし其の他は凡て陸屋根とす、屋内には暖房、給水場、其の他諸般の設備を爲し、其の概要左の如くである。

- 一、敷地面積 九、五九七平方メートル
- 一、起 工 大正十五年九月一日
- 一、竣 工 昭和三年三月二十八日
- 一、建築様式 近世式鐵筋「コンクリート」裝飾は和蘭式
- 一、本館建坪 二、〇三五平方メートル
- 一、延 坪 八、八八八平方メートル
- 一、階 數 地階共五階



市 廳 舎

- 一、室 數 百十一室
- 一、建物の高さ 地表より「パラベット」上端迄 十四米〇九
- 同 中央屋根最高迄 二〇米六〇
- 一、工事費總額 金七拾四萬九千貳百貳拾七圓五拾參錢

一、設 備

電燈 電氣室を地階に設け配線は凡て鐵管内に通じ隠蔽工事とし其の分岐點及屈曲部には「ボックス」を設けて修理に便にし又各階適當の箇處に分電盤を設置す、照明器は多くは半透照明とし室に應じ適當なる形を用ふ。

電話 電話交換室を二階に設け共電式交換機二座席のもの二臺を据付け局電話十六箇を受け廳内私設電話百十箇を交換し得る。

電氣時計 電池式とし獨逸國「シーメンズ・ハルスク」會社製品を用ふ。

電鈴及「サイレン」 各室に「ブザー」を又各階廊下には二箇所宛時報電鈴を尙屋上の中央塔屋上に「モーターサイレン」を設置す。

暖房 低壓式蒸氣暖房を採用し汽罐室を地階に設け「ローラー」式「ボイラー」三基を据付け各室及廊下に四柱式放熱器を配置して室内を華氏六十五度内外、廊下を五十度内外の温度に保たしむ。

給水湯 給水は上水を使用し屋上に給水槽を設け夫れより各所に給水し温湯は二管式給湯配管法により給湯す。

消火裝置 後庭の中央に消火栓を設け尙屋内は各階適當の箇所に室内消火栓を設置す。

排水 便所よりの汚水は凡て淨化槽に導き其の他の汚水は直接公設下水道に排疏し若し一朝豪雨に際し排水困難なる場合は機械力により排出すべく「ドライエリア」内の二箇所に唧筒を設置す。

淨化裝置 一日六百人に對する容量の西原式淨化裝置を設く。

瓦斯裝置 炊事及浴室用には凡て瓦斯を使用す。

#### 四、會議及委員

本市現在の市會議員定數は四十四人である從來は四十人を定數として三選舉區より選出せられて居たのであるが昭和四年四月隣接七箇町村合併に依り人口増加に伴ひ定員四人を増し從來の三選舉區制を東西選舉區の二選舉區制に改め東部選舉區より二十人、西部選舉區より二十四人を選出することゝなつたが更に昭和八年五月選舉區條例の改正を行ひ東部選舉區より二十一人、西部選舉區より二十三人を選出することゝなつた。

市參事會は其の定數を十人と定められ市會議員中より選出せられて居る。

本市には此の他に左の如き市制第八十三條に依る常設及臨時委員が設置せられて居る。

學 務 委 員 委員數 (十 人)

土 木 委 員 同 (十五 人)

水 道 委 員 同 (九 人)

功 勞 者 調 査 委 員 同 (七 人)

財政臨時調査委員	委員數	(十五人)
臨時産業調査委員	同	(七人)
臨時社會事業調査委員	同	(七人)
臨時都市計畫調査委員	同	(七人)
市營事業臨時調査委員	同	(十五人)
臨時公會堂改築調査委員	同	(九人)

## 五、財 政

自治の發達は必然的に都市の施設經營を多岐多端ならしめると共に一方委任行政の増高と物價の昂騰とは財政の急激なる膨張を來すのである、本市に於ては昭和四年四月隣接七箇町村を合併し爲に市政は益々増加を來して居るのである、而して財政の膨張は一面自治の發展を物語るとは謂へ其の推移は遂に都市財政の行詰りを生ずる結果に外ならざるかの惧があり従て市政に關しては特に市民のより良き理解と協力とを必要とするものである。

本市昭和八年度の豫算編成は過去數年來の財界の不況、事業界の不振に禍せられ歳入は低減し従て歳出も亦極度に切詰め以て適所に適費を配し尙幾何程かの新規事業を行ふべく努めたものである、尙其の歳出は明治二十三年(市制施行次年)の夫に比し實に約百倍餘の膨張となつて居る、此の膨張率は將來も尙持續することと思ふ。

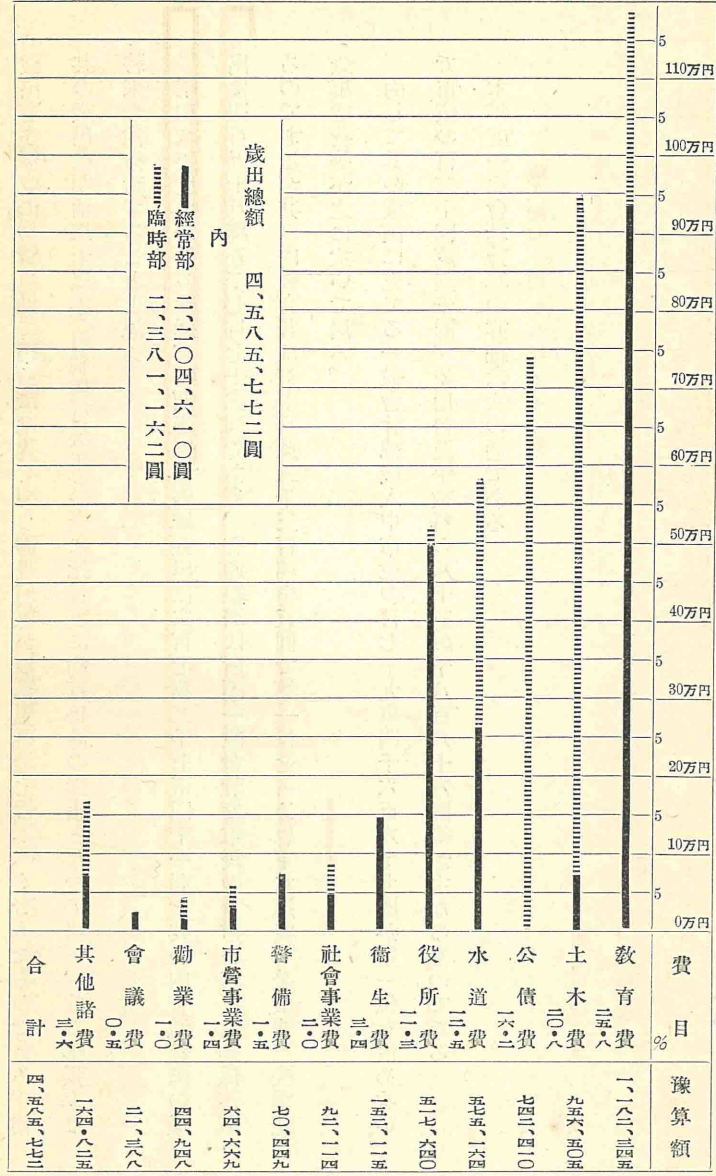
昭和八年度に於ける普通、特別兩經濟の總歳出は六百七萬二千七百四十一圓で其の内普通經濟の歳出は四百五十八萬五千七百七十二圓である、普通經濟は所謂一般會計で市民の負擔と密接な關係があるのであるが其の内教育費は百十八萬二千三百四十五圓で第一位を占め以下水道費、公債費、失業應急事業費等が之に次いで居る。

而して其の歳出に充てる一般會計總歳入中市税の百七十九萬四千六百六十九圓が第一位を占め次いで市債の百二十四萬三千圓、使用料及手數料の八十三萬千八百六十六圓等が主なるものである。

本年度一般會計豫算の詳細は次の通である。

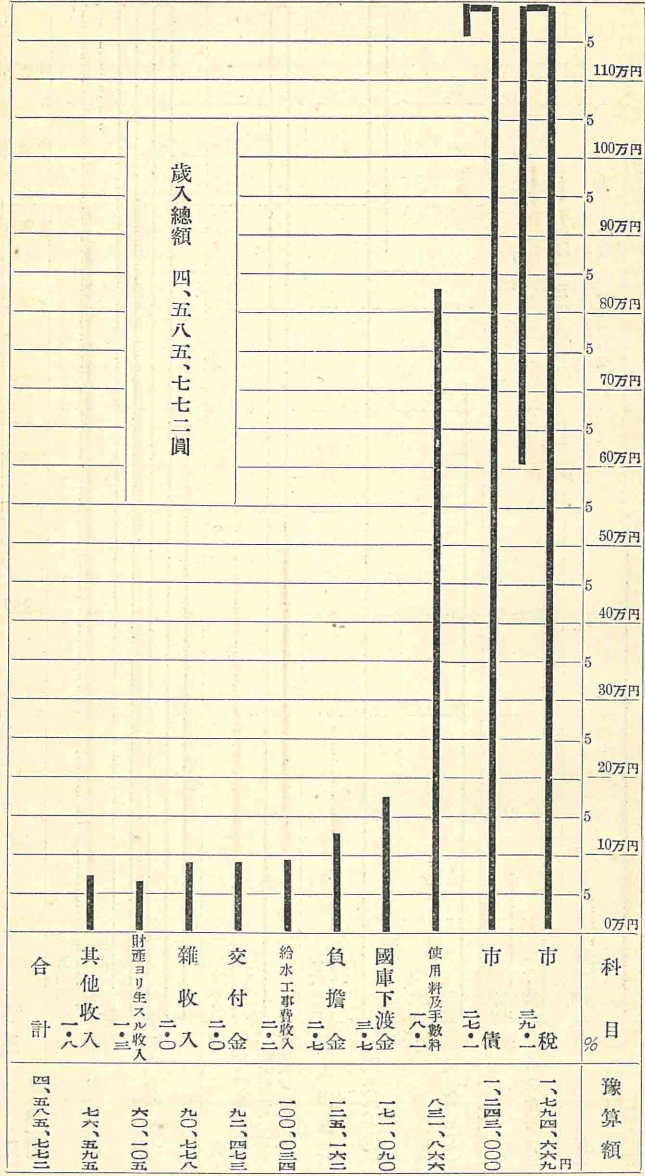
昭和八年 廣島市 歲入一覽 (當初豫算)

一一二

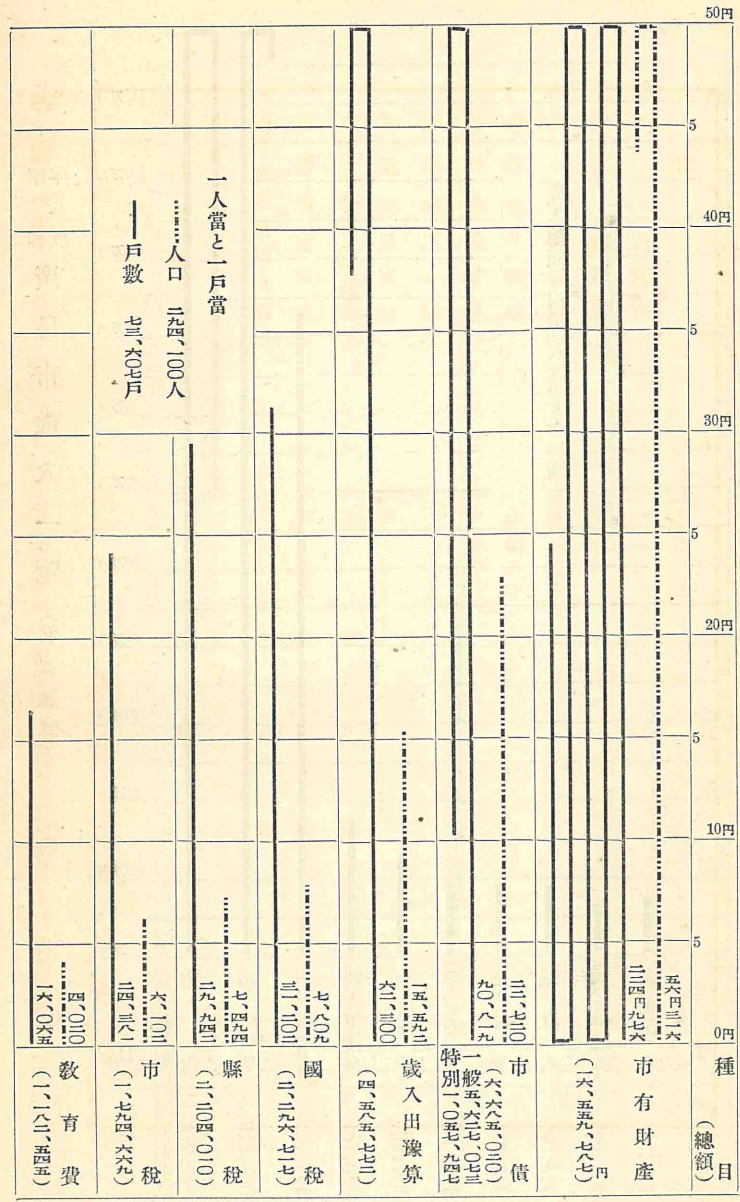


昭和八年 廣島市 歲入一覽 (當初豫算)

一一三



財產及負擔其他一覽



市稅 本市昭和八年一般市稅及都市計畫特別稅の豫算額を各稅毎に區分すれば次の通である。

市		都市計畫特別稅	
區分	豫算額	區分	豫算額
地租附加稅	1,000,633	地租割	17,499
特別地稅附加稅	802	營業收益稅割	88,922
營業收益稅附加稅	353,411	營業稅	11,859
所得稅附加稅	108,799	雄屋稅	180,419
取引所營業稅附加稅	6,207	家屋稅	154,011
家屋稅附加稅	769,621		
營業稅附加稅	30,065		
雜種稅附加稅	341,450		
特別稅戶別稅	3,437		
同所得稅	65,326		
同觀覽稅	14,350		
同段別割	1,138		
計	1,794,669	計	452,710



市債 本市の市債未償還額（昭和七年度末現在）は六百六十八萬五千二十圓三十一錢である。

事業別に依る市債

（昭和八年三月末現在）

事業別	未償還額	昭和八年度償還豫算額
水道事業関係	二、一八九、二二九 <sup>円</sup>	
教育事業関係	二、〇八三、五一九	
土木事業関係	一、一四〇、八〇〇	
都市計畫事業関係	九九五、〇〇〇	三八二、〇六八 <sup>円</sup>
社会事業関係	二五〇、八五七	
保健衛生関係	二五、六一五	
計	六、六八五、〇二〇	三八二、〇六八

市有財産

本市の市有各種財産は市勢の發展と共に年々増加しつつあるが昭和八年三月末現在額は次の通である。

- 基本財産 六四一、一六七、三七<sup>円</sup>
- 罹災救助資金 三八、四五八、五六

- 奨學資金 一四、二六三、二六

- 市立浅野圖書館資金 五〇、〇〇〇、〇〇

- 公園改良資金積立金 七、六三八、四八

- 博覽・共進會開催積立金 四、九九七、九二

- 土地 五六四、二六〇、七二<sup>平方米</sup>

- (六、〇〇六、九九六、六五)<sup>平方米</sup>

- 一六五、二〇八、三三<sup>平方米</sup>

- (四、二八九、三六四、〇三)<sup>平方米</sup>

- 五、五〇六、八八一、〇五

- 一六、五五九、七八七、一二

六、教育

本市は位置、風土、民俗等環境が教育に適して居るから各種の教育機關が備り夙に教育都市を以て稱せられて居る即ち文理科大學を始めとして高等師範學校一、高等學校一、高等工業學校一、女子專

門學校二、師範學校一、中學校七、高等女學校八、商業學校五、工業學校一、盲啞學校一、職業學校一、實業補習學校七、小學校三九、幼稚園一七、私立各種學校四〇等がある、此の他社會教育機關として圖書館九、青年訓練所三四、男子青年團三二、女子青年團三〇、婦人會二六、少年團八等がある。今此等の中本市の經營助成に屬するものに就き左に梗概を記述する。

(1) 小學校

市立小學校は尋常小學校三校、尋常高等小學校二十九校、高等小學校二校、計三十四校である。此の外濟美、光道、廣島女學院附屬小學校の三私立小學校がある。本市は是等私立小學校に對して年額一萬二千二百圓の補助金を交付して其の發達を促して居



廣島文理科學大

る、又福島町夜學校を設けて晝間就學することが出来ない兒童を收容して義務教育の徹底を期してゐる。

市立小學校の尋常科の兒童數は三萬三千六百人、同高等科の兒童數は約五千百人、計三萬八千七百人で年々約二千人の増加を示してゐる。

是等兒童の教養に任ずる教員八百二十人、學校醫、看護婦其他の傭員約百二十人に達し校地三十萬九千九十二平方米、校舍十二萬二千三百五十五平方米(延坪)一箇年經常費七十五萬圓を要し、更に年々平均一校を新設する爲め臨時費約二十萬圓を要する割合となり、昭和八年度に於ては明年度より開校すべき尋常小學校二校の建築設計中である。

本市に於て小學教育上の施設經營に特に留意せる點は次の諸項である。

一、徳性の涵養を主眼とする。

明治廿七八年戰役の大本營址及舊御便殿を尊崇し、郷土先哲偉人の事蹟を追慕せしめ是等教育資料の調査保存に關しては相當多額の經費を支出して居る。

二、兒童及教師の健康増進に努力する。

校地の選定校舍の建築には衛生條件の完備に努め運動場の面積を裕かにし専任學校醫三名、囑託

學校醫十一名及各校に看護婦を特設する等の外、特に夏季臨海、林間墾落等の施設を行ひ又年額八千圓を支出して虚弱兒童の爲め營養を供給し、缺食兒童給食の方途を講じて居る。

### 三、勤勞に耐へ實生活に役立つ人材育成に努める。

由來本市は城下都市として發達したる關係上、容易に消費都市の域を脱し得なかつたが、今や世界大戦亂を契機として商工都市たらんとするの過渡期に立つてゐる、隨つて勤勞を好愛し不屈不撓の品性と習慣を體得せしむることが特に肝要なので、兒童の勤勞を獎勵し勤勞兒童の選奨を行ふ、彼の昭和七年度から多額の經費を投じて第一第二高等小學校を新設して所謂實科に重點を置く施設を爲したのは作業に依る教化を徹底し以て如上の目的を達成せんとする爲に外ならないのである。

### 四、教育者の修養向上を圖る。

教育者の心身の健否が教育の鎖鑰であることは論ずるまでもない。本市が教員の招聘に際し人選を慎重にし且各方面の指導員を特設し以て其の修養を獎勵し各種の講習及び實地指導を行ひ、盛に他方の視察を行はしめ、又屢々身體検査を行ひて健康の増進を計り其の素質の向上を企圖してゐる。

### (2) 實業補習學校

本市立實業補習學校は、商業專修學校 工業專修學校並青崎、三篠、己斐、古田、草津の各實業補習學校の七校である、其の多くは晝間教育を受くることの出来ない青年に對し適切な實業教育を施さんとするものである、特に工業專修學校は廣島高等工業學校内に設置し、同校長の兼務に依り經營し教師は同校教授を囑託し完備せる同校の設備を利用し其の内容の充實せることは、多く類例を見ざる處である、商業專修學校は専任教師と市立商業學校、縣立商業學校教諭の兼務に依り内容よく充實してゐる、兩校共各約四百人の生徒を收容し年々約三百七十名の卒業生を實業界に送り出し良好の成績を擧げて居る、在學生は官廳、銀行、會社、商店、工場或は家庭の業務に従事せる者が大多數で毎夜深更に至るまで刻苦精勵、只管前途の開拓に奮闘せる有様は壯絶の極である。

### (3) 中等學校

市立に係るものは廣島市高等女學校、廣島市商業學校の二校である、修業年限は高等女學校本科四箇年、補習科一箇年、現在收容生徒千百名で商業學校は修業年限一種五箇年、二種三箇年で現在收容生徒數七百名である、共に思操堅實にして勤勞を好愛し善良なる市民たるべき素質の育成に努め、共に成績良好にして、地方の信頼甚だ厚く、年々の入學志願者は常に募集人員の五六倍に達する情況であ

る。

(4) 圖書館

圖書館は市立淺野圖書館が主なるものである。

市立淺野圖書館は昭和六年十月侯爵淺野家が敷地、建物、藏書等を擧げて本市に寄附せられたもので郷土研究資料の豊富なる點に於ては地方稀に見る所である、藏書五萬五千卷、一箇年閱覽人員約五萬人である。

(5) 青年訓練所

市立は三十二箇所である。生徒數三千人、主事及學科指導員百八十六名、教練指導員百十名、職業科指導員二十二名を配して居る。

訓練の成績頗る良好で、現下の國情に鑑み青年は勿論父兄雇傭者の自覺に依り年々隆盛に向ひつゝあるのは邦家の爲め同慶に堪へざる處である。

(6) 青年團、少年團、婦人會

男子青年團は三十二、團員數約四千二百名、女子青年團は十八、團員數約三千名である。男女各別に各團を統括して聯合青年團を組織して居る、少年團は八團、團員約三百七十名、之を總括して聯合

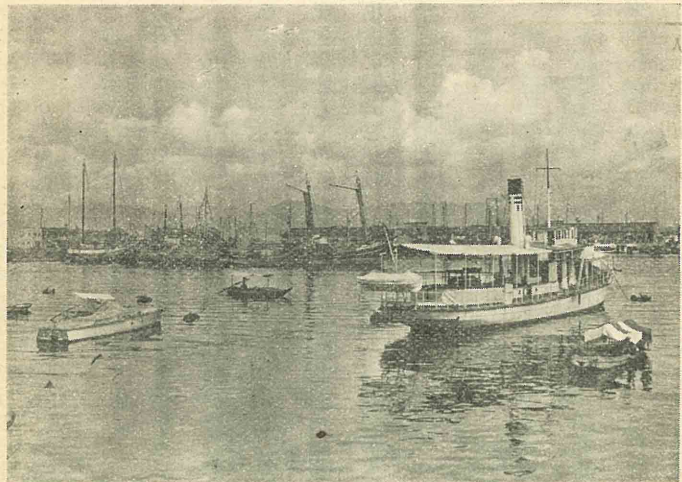
少年團を設けること青年團と同様である、此の他に婦人會二十六團があり會員約一萬八千人を有する、以上何れも概ね小學校通學區域を單元として各團を組織し、講演會、講習會其の他修養の爲有益なる事業を行つてゐる、市は是等の爲五千二百圓の補助金を交付して其の向上を計つて居る。

(7) 社團法人廣島市教育會

本市教育關係者及有志者を以て組織し、會員約二千人を有し本市教育の普及發達を目的とせる團體で、毎月一回會誌を發刊し、講演會、講習會、婦人講座等を開設し、水泳大會、體力検査を行ひ、運動を獎勵し、市民體育の向上を圖り、貧困學童の爲に教科書、學用品其の他食料等を給與して就學、出席を獎勵し、勤勞兒童を表彰し、勤勞學生懇談會を開催し、名勝古蹟の顯彰等を行ふ、市は年々一千五百圓の補助金を交付して居る。

## 七、産 業

本市は産業的環境に恵まれ而して住民の工藝的能力に依り藩政時代より既に産業都市として發達し來つたのであるが眞の産業都市として發展し來つたのは日清戰役以降の事である、所謂軍用港として大いに其の使命を完ふしたる廣島港は明治二十二年に完成し同二十七年山陽線の開通を見るに至り



廣 島 港

日清日露兩戰役の影響を蒙り軍事、商工兩方面に活躍したものである、而して同時に企業熱の勃興を見、罐詰、製綿、綿糸紡績、板紙、洋紙、指物及燐寸製造業等の生産工業と印刷、電気、瓦斯、鐵道、軌道及金融業の創業を見るに至り後歐洲大戰の勃發となり世界的物資需給の變調を來し本市の縫針、燐寸等盛に海外に新販路を開拓し尙同大戰以來人造絹糸、護謨製品、船底塗料、人造砥石、コルク製品、金ペン、機械工具類、兵器、自動自轉車及染織等の新興業も踵を接して起つたのである。斯の如く新興業の勃起を見るに至れる所以のものは本市が比較的企業的諸條件に恵まれて居る事に起因するのである、即ち豊富低廉なる電力及上水道があり加ふるに質實勤勉なる労働者あり物資

豊富なる爲貨銀低廉にして眞に企業の好適地であることは克く知られて居るところである。

本市の生産年額は次の通である。

工 産 額	六二、八五一、九〇二 <sup>円</sup>
農 産 額	三、三四二、九五一
水 産 額	二、六七五、三一五
畜 産 額	三、二二〇、三〇六
林 産 額	三〇、七八〇
鑛 産 額	六、二七七
合 計	七二、一一七、五三一

工産中主要品は次の通である。(單位千圓)

品 名	價 額	品 名	價 額
精 米	五、三三三	罐 詰	二、四九三
印刷及製本	四、五七〇	製 綿	一、八四九
人造絹糸	四、一〇四	綿糸紡績	一、八四二
		菓 子 類	一、四〇六
		護 謨 製 品	一、七四五
		製 材	一、六四三

タ	ン	パ	ン	電	柱		一、一四九	酒	類		五一四	佛	壇	三六三
算	筆	筒				一、〇三八	蚊	帳	地		四八五	紙	製	三三〇
縫	針					九〇三	墨				四五七	蠟	附	三二三
蒲	針					八七四	鑄	物	類		四五六	洋	家	三一七
色	木					七八六	染	手	拭		四三〇	漉	海	二九七
賣	藥					七七五	板	紙			四二二	石	材	二五一
石	瓦					六三八	足	袋	紙		四一二	醬	昆	二四四
絹	捺					六一二	雨	傘			四〇三	製	布	二二四
履	物					五六五	靴				三八四	砥	石	一八六
清涼	飲料					五三七	水	物	類		三八四	金	ハ	一五六
塗	料					五一七	建	具	類		三六八			

内國商業

本市の内國商業の商勢圏は現在廣島港灣の後方地域とせられる本縣下の大部分及沿海部、藝南島嶼部と島根縣下石見國及山口縣下周防國の各大半を占め殊に大正九年神戸税關宇品出張所設置並昭和五年臺灣糖内地移入場設置及近年自動車運輸交通の發展に依つて益々商勢圏の擴張を招來するに至つた。尙本市特産の縫針、罐詰、製綿、清酒、捺染、鑄物、機械工具、人造絹糸、船底塗料、

護謨製品、和洋家具、佛壇(木地及仕上)、コルク製品、自動自轉車等は殆んど全國到る所に及び益々内國商業の隆昌を招來するに至つたのである、移出入品中主要なるもの(一箇年五千噸以上)は木材、石炭、鐵材、穀類、窯業品、魚介類、肥料、製綿、罐詰食料品、煙草、蔬菜、果實類、和洋紙、牛馬油脂、蠟、燐寸、護謨製品、藥種、染料塗料、薪炭、和洋酒、綿糸、織物、砂糖、穀粉、菓子類、味噌醬油等にして取引價額は一億八千七百九十七萬七千餘圓に達するのである。

内國移出入の運輸状態は次の通である。

區分	移出額		移入額		
	數量	價額	數量	價額	
陸運	鐵道	二六、八〇〇噸	一五、二八六、〇八〇円		
		九六、五七七噸	一、五〇一、〇二〇		
	自動車	三三、一七二	三、八〇〇、九九〇		
		其他	四、五四一、二二五	四、三三九、五三三	
水運	六九、六三四噸	七三、九八八、八七三	一、三三九、三三三	二五、〇〇八、三三八円	
	計				

外國貿易

廣島港は内外の通商港として優秀の地位を占めるものであるが軍事上の重要港である

關係上開港々則の適用を受けるに至らないので本市の輸出入は殆んど阪神若は關門地方を經由するの已むを得ない状態にあつたが大正九年十月宇品町に保税地域の設定を特許せられ神戸税關出張所を置き我國に船籍を有する外國貿易船舶の出入を特許せられるに至り其の輸出入貨物は次第に増加し殊に這般の滿洲事變に引續き滿洲新國家の建設に依り同方面に對する輸出貿易の増進は眞に目覺ましいものがある、尙對外取引主要先は大連、大連及朝鮮を經由して滿洲國各地、支那（天津、青島、上海、漢口）、佛領印度支那、米領マニラ、布哇、北米、浦鹽等である。

最近五箇年間の貿易額は次の如くである。

外國輸出入額

（神戸税關宇品出張所通關）

年次	輸出	輸入	合計
昭和三年	四九、三九五	四、七四、八二二	五、三三、一七六
同四年	四一、九一六	四、八六七、九六三	五、二八、八七九
同五年	三七、五〇七	四、〇一八、五三八	四、三九、〇四五
同六年	三三、八四七	三、一五、一四三	三、四八、九九九
同七年	六、五、八七七	二、七九、七〇三	三、三五、五八〇

而して對外貿易は前述の如く地元港灣が不開港である爲外國に船籍を有して居る貿易船の入港を許さないのと航路關係其の他の事由に依つて阪神若は關門積替へ又は該地貿易業者の手を經るものが甚だ多いのである、其の輸出入品中主要なものは鹽乾魚、罐詰、製綿、各種織物、縫針、萬年筆、護謨製品、履物及其の附屬品、毛布、菓子類、柑橘其の他を合して輸出約四百六十萬圓及米、澱粉、牛肉、皮革、石油、揮發油、機械油、肥料、生護謨、藥品、原綿、ラミー洋服地、バルブ、鍼力板、鐵材、木材、自動車及同部分品、機械類其の他を合して輸入約一千二百萬圓に達し廣島港に於ける輸出入を合して殆んど二千萬圓に垂んたるものがあり是等の一切は將來施工中にある大廣島港灣の修築竣成と相俟て漸次直接輸出入の途を開かれるものと確信するものである。

**金融** 金融資本の力が都市の成育に多大の寄與を爲すことは今更言を俟たない所であるが、本市の金融状態を検するに、即ち市内に本店を有する銀行は農工銀行一、普通銀行一、貯蓄銀行一、合計三行で此の他日本銀行を始め他都市に本店を有して居る夫等の支店数は十二行で昭和七年中に取扱はれたる預金高は八億四千十四萬三千二百二十七圓にして同年末現在高一億二千二百三十八萬六千八百八十四圓であつて、同年中に於ける貸付高は三億二千九百九十七萬二千六百圓で年々の増加率は順調に進んで居る、尙手形交換高は三億七千五百九十八萬八千三百五十三圓である。

而して各種信用組合の昭和七年中の預入高は二千三百四十七萬九千四十五圓で貸付高は千二百八十四萬四千六百九十七圓となつて居る。

斯様に本市の産業は順當なる歩調を辿つて居るけれ共尙將來に向つて大飛躍を爲さねばならぬ秋にあるので着々之が對策として商工業に關する知識普及及各種の施設を爲し就中各種貿易協會、各種産業組合の設立獎勵並補助及農業方面へは市農會、水産業方面へは市水産會を通じ相俟て活動し其の他海外見本市の指導及實務員の派遣等産業の助長獎勵に努力を續けて居る。

而して現在産業上の施設としては次の如きものがある。

**屠場** は市内福島町に在つて大正三年五月經費十一萬千餘圓を以て増改築せられ今日に到つたものであるが其の建物及機械器具は崩新にして其の設備の整備して居ることは全國有數のものであつて衛生上より見ても斷然他都市に誇るべきものがある、從て其の一箇年間(昭和七年度中)に取扱はれた屠殺數量は牛、馬、豚合して頭數二萬千九百九十八頭、肉量三百三十三萬五千五百五十六磅にして價額百八十八萬五千四百圓に達して居る。

而して此の他本市所管外に宇品陸軍糧秣支廠内に一箇所の屠場がある。

**常設家畜市場**

は同じく市内福島町に在つて大正三年六月經費二萬七千餘圓を以て建築せられ、

畜産地として有名な島根縣、鳥取縣及山口縣、四國、北九州に隣接せる故を以て水陸共に交通至便なる本市に自然牛馬の集散夥しく之が一箇年間の取扱を見るに賣買一萬八千八百九十七頭其の他六千九百七十七頭合計二萬五千八百四頭に及んで居る。

**市場** 公設市場は各都市が保健及社會政策の一として施設したのであるが近時是等の施設を都市畫の一として盛に考察せられて居るのである。

本市の市設市場は卸賣市場は目下研究問題として調査中であるので市場設備としては唯小賣市場があるのみである。

公設市場は大正九年物價最高騰時代に之が應急施設として三箇所開設したのに始まり其の後食料品の精選と小賣市價の統一とを目的とし終に永久的施設として改善増設せられるに至り現在六箇所を開設せられて居る。

而して他面私設市場は年々増加し現在二十箇所に達して居る。

公設市場の名稱及其の他の狀況は次の通である。

名稱	所在地	開設年月	店舗數	賣上高
東松原	大須賀町松原通	大正九年五月	一五	二八、六〇六圓
大手町九丁目	大手町九丁目	同 年六月	一二	三八、五一四



河原町	河原町	大正九年八月	一六	五一、四一五
天神町	天神町新橋西詰	同十三年十二月	九	二八、八九七
段原町	段原大畑町	昭和二年五月	一四	四六、六九八
荒神町	荒神町	同年六月	三	五〇一

備考 賣上高は昭和七年度分を示す

**宇品市營棧橋** は大正十一年七月廣島棧橋株式會社より五萬三千圓にて買取の上本市の經營となつたもので今日に至つて居るが、昭和七年度中の棧橋通行人員は乗船二十萬六千八百八十三人（内小兒一萬二百四十三人）、上陸十二萬八千三百六十七人（内小兒九千九百九十一人）で之が使用料總額は一萬八千九百七十四圓である。

### 八、衛 生

都市問題の中心は都市生活に於ける保健衛生と交通の問題である、殊に新興商工都市として合理的發展を期せんとする爲には保健政策上周到なる施設を要するのである、斯く考へ來ると本市の保健施設には今後益々改善進歩を要する點が多い、以下具體的施設の主なるものを掲げれば次の通である。

**船入病院** は傳染病及其の疑ある患者の收容及治療を主とする所謂傳染病院である。

大正八年建築費四十萬圓を以て起工し同十三年竣功したのであるが其の設備は病室七十九室あり之を普通、特別兩室に分ち特別室のみ有料とし他は無料として居る、而して治療、消毒及防疫機械器具に至つては近代醫療器具の粹を集め萬遺憾なきを期して居る。

昭和七年中に於ける傳染病發生數は四百四十人にして内腸チブスは三百九人の多數に上つて居る、而して入院收容したる者は三百九十三人で全治したる者三百十六人である、由來本市は秋季より冬季に及んで腸チブス患者頻に發生したものであるが近年に至つては殆んど其の事少く漸次市民の保健衛生思想普及と相俟つて徹底的に之が驅除せらるること、信じて居る。

**畑賀病院** は結核豫防法に依據して設立せられ結核病に罹り貧困其の他の事由に依り療養に途の無い者を收容治療する病院である。

本病院は大正八年設置命令を受けてより種々迂餘曲折があつて其の設置を見るに至らなかつたのであるが、昨年三月に至り近郊安藝郡畑賀村に一萬一千五百餘平方米の敷地を買收し建設費七萬六千餘圓を以て工事に着手し本年九月之が竣功を見たのであるが之は其の第一期工事であつて輕症患者二十四人を收容するものであり十月七日より開院して居るのである、病室は十二人收容室二室あり其の他

レントゲン室、日光浴場、消毒場等其の設備に至つては間然する所無きを期して居る。

由來畑賀村は風光明媚にして閑靜、山陽本線安藝中野驛より僅に四町餘、本市より自動車にて四十餘にして達する距離にあつて眞に理想的療養地である、故に將來第二期、同第三期工事を施行し中、重症を合して約六十人の患者を收容治療する病院たらしめんとして居る。

**衛生試験所** は船入病院内の一部に設けて居る。

水質其の他一般保健、防疫に就き學術的試験検査を行ひ又依頼によつて衛生上の諸試験検査を行ふものである。

大正十五年十一月設置以來年々之を利用するもの増加し現在一箇年(昭和七年中)三千八百十五件の依頼試験に應じて居る。

**塵芥處分** に就ては各都市に於ても未だ理想的方法が発見されて居ない状態にあるが、本市に於ては之を請負人に賣却方法を探つて居る、賣却せられた是等塵芥は本市より海上數里を隔てたる島嶼に肥料として搬出せられて居るのである。

此の方法は極めて簡易にして又理想的に近いものである、即ち市内より塵芥假溜場に掃除人夫の手により運搬せられ其處より船舶に依り一物も残さず搬出せられるもので、本市は此の塵芥運搬の爲に

一箇年(昭和七年中)掃除人夫延約二萬九千人を使用して居る、而して之に掃除監視吏員二十四人を派し日々市内の清掃に努めさせて居る。

一箇年(昭和七年中)に搬出せられる塵芥量は約四千二百四十八萬斤にして一日一人當約百三十九斤である。

**屎尿處分** は各都市共多大の經費を費して最も手を焼いて居る問題である。

本市の屎尿の約九割は近郊農業者に於て汲取られ處分せられて居るが近時其の需要の少い市内中央及南部方面に互つては之を無料汲取方の取扱を爲して居るが其の戸數約六千戸に達して居る。

而して汲取處分は塵芥處分請負人に附帶義務として負擔せしめて居るので従て本市に於ては此の處分の爲に市費の支辨を要しないのである、然しながら此の方法は理想的にあらざる爲他の理想的方法に就いて現在研究中で居る。

本市の保健衛生設備は以上の如くであるが尙其の他に直接市民と衛生上に就き連絡を取る上に於いての機關に衛生組合がある。

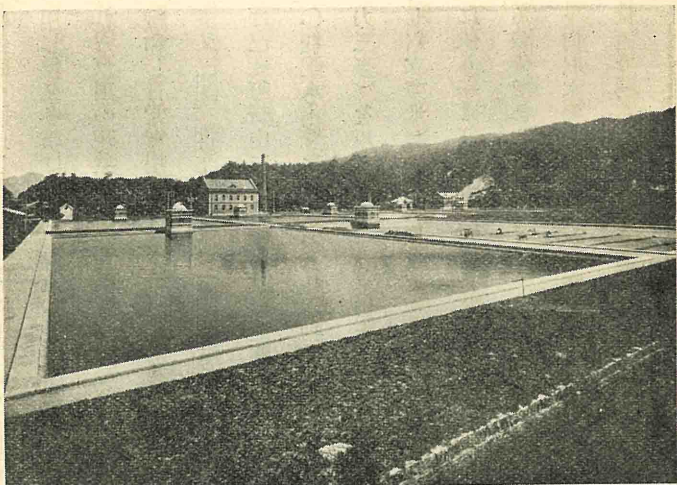
**衛生組合** 本市の衛生組合は明治三十一年縣令を以て衛生組合規則を定められ面目を一新し衛生組合としての基礎漸く強固となつたもので市内各町に涉つて恰く組合の設置を見るに至り現在二百七

十八組合、二千五百人の衛生組長、同副組長並其の他の役員があり市民の保健衛生の爲に努力して居るのである。

尙本市には共葬墓地と稱ふるもの七箇所あり其の面積は約二萬三千八百餘平方米である。市の所有に係る火葬場は現在五箇所あるが何れも理想的でなく、市營火葬場に付いては現在調査研究中である。

## 九、上水道

上水道は明治二十九年軍用水道と相俟つて起工し同三十一年一月竣工す、其の工費は軍用六十三萬九千八百四十五圓、市有二十九萬四千六十五圓を要した、而して軍用水道は同三十一年九月一日より向ふ三十箇年間本市使用の許可を得同三十二年一月より陸軍諸官衛及市内一般に給水を開始したのである、當時の施設は人口十二萬人に對するもの（一人一日最大給水量一〇六立一四）であつたが戸口逐年増加して僅々十箇年に給水限度の人口を超へるに至つたので同四十年三月第一期擴張工事を起し同四十一年三月竣工を見る、此の工費十四萬五千五百九十四圓を要し人口十六萬人に對する最大給水量一萬六千八百八十五立方メートルを供給し得るに至つたのである、然るに本市の發展著しく人口益々増加し既設の設備では漸く給水不足を告げ大正十年五月第二期擴張工事を起し同十三年六月竣工す、此の



牛田浄水場

工費百八十九萬九千七百三十圓、人口二十五萬人に對する最大給水量三萬六千四百三十九立方メートル（一人一日最大給水量一四八立六六）の需要を充し得るに至つたのである、爾來本市は異數の發展を爲し逐年人口増加するばかりでなく昭和四年四月隣接町村の合併等に依り急速に第三期擴張工事に必要に迫られ昭和五年八月起工、目下工事繼續施行中に屬し昭和九年三月竣工の豫定である、此の工費豫算總額百九十九萬六千七百七十三圓で人口四十萬人に對する最大給水量七萬六千四百五十五立方メートル（一人一日最大給水量一九一立一四）の給水能力を有する施設である、此の工事設計中在來の設備に比し特に異なる點は從來の如く表面水を取水せず、伏流水を取入れることである、此の伏流水

は表面水に比し水質著しく向上し其の儘にても飲用し得又冬季は其の水温六、七度上昇し夏季はこれと反対の現象を示し表面水の缺點を或る程度迄緩和し日常實用に好適するのである。

又已斐、古江、草津、三篠各町の配水に對しては已斐町新山に調整場を設け已斐橋に至れる三五〇耗配水本管を之に引入れ電動送水唧筒（三十馬力三臺）を以て海拔四五米山上の調整地（容量八七六立方米）に揚水し之より三五〇耗配水管二條に依り一は草津町方面に一は三篠町方面に配水する設備である。

尙取水場の鐵管布設は在來地盤以下八、九米の位置で湧水も甚しく普通接手では施工が困難なので最近發明の「ビクトリック」接手を使用したので



ある、此の接手は特種「ゴム」と可鍛鐵製の覆函より成り之を單に「ボルト」にて締付けるのであるから水中でも作業が容易な計りでなく水壓保持が確實で地震の場合等にも普通接手に比べて遙に安全なのである。

此の擴張工事竣工後の水源設備の概要を示せば左の通である。

取水場 位 置 廣島縣安佐郡原村大字東原字和久操

面 積 六、七〇〇平方米

取水 枳 最低水面下五米を基礎とし方形鐵筋混凝土造函内法〇、九一米一、二

一米、一、五二米の三種を長方形に併列、周圍に清淨なる川砂利を填

充し枳に穿ちたる多數の小孔より浸透水を集む。

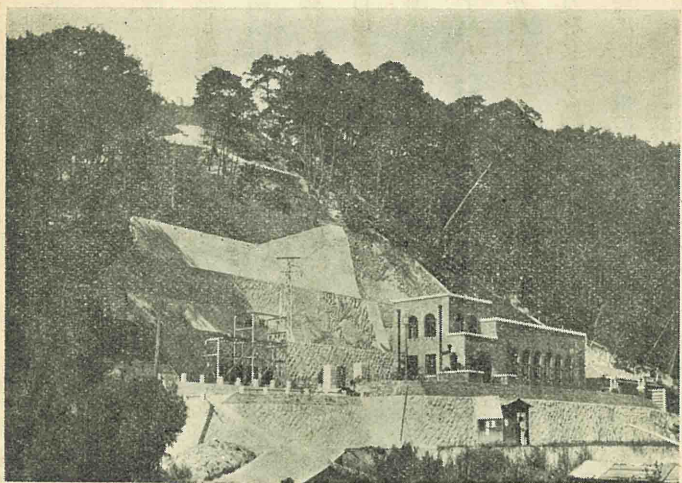
取 水管 九〇〇耗鑄鐵管二條 延長二一〇米

取水唧筒室 一棟 一五〇馬力電動取水唧筒四臺

送 水管 九〇〇耗鑄鐵管一條 延長二、四五〇米

淨水場 位 置 廣島市牛田町字神田川成

面 積 一〇一、四一二平方米



己斐調整場

濾過池二十八個 總濾過面積 一三、八四〇平方米

鹽素滅菌室 一棟

送水唧筒室 二棟 一六五馬力電動送水唧筒四臺  
二〇〇馬力內燃機動送水唧筒三臺

配水池 七個 貯水量、一四、六八〇立方米

量水室 二棟 六五〇耗、六〇〇耗、五〇〇耗、  
四五〇耗ベンヂユリメーター各一臺

**取水場** 取水栓にて取水せる伏流水は取水唧筒に依り淨水場に送水し濾過池に依り淨化したる後送水唧筒を以て海拔五二米の山上にある配水池に壓送し市内に配水するのである。

尙淨水場には在來地表水取水に對する設備を其の儘豫備として存置し新設取水場事故の時使用し給水上支障を起さぬ様にする計畫である。

## 十、下水道

本市の下水道は明治三十一年上水道と併行して之が建設を企圖せられたが財政其の他の理由に由り延期せられ同四十一年三月五箇年繼續事業として起工せられ後國庫補助等の關係に由り七箇年繼續に變更を見るに至り大正五年五月總工費百四十六萬三千餘圓を以て竣功したのであるが、其の延長は十

四萬五千一百一十一米、排水面積五百九十二萬七千平方米其の工事の大要は次の如きものである。

**構造** は凡て土管及鐵筋混凝土管を以てせられ平均六十米に一箇の人孔及燈孔を設置して居る。

下水管の内徑は最大幅員二米、水深一米七の暗渠及〇、八米乃至〇、〇二米の土管、混凝土管を流量の多寡に依て數種の口徑のものを使用して居る。

**側溝** 道路上及沿道家屋の雨水を直に下水道に導く爲其の兩側軒下に幅員〇、二四米深さ〇、〇九米の側溝及内徑〇、一五米の雨水引入管を築造し約三十六米毎に一箇の雨水樹を設置して本管と連絡せしめて居る。

各戸下水、汚水（一日一人平均使用水量一〇立と推定）雨水（一時間二十五耗の降雨を標準）は暗渠式に依り公道以外は各戸の經費を以て戸毎或は數戸共同で下水管に連絡せしめて居る、公設枝管（内徑〇、一二米）の延長は四萬五千四百八十米である。

**抽水場** 本市の北部は高燥であるが南部新開地方面は低濕にして下水の自然流下に依る排水が不可能であるので此の方面に六箇所の抽水所を設けて汚水、雨水の疎通迅速を圖ることとした。

而して下水道完成後の掃除方法には多大の注意を拂ひ年々修理改善及下水道の擴張を圖つて居るが現在に於ては幹支線の延長二十六萬四千九百十米、其の排水面積七百九萬千三百三十餘平方米に及び

抽水所十一箇所を敷へて居る。

昭和四年四月隣接七箇町村の合併に依り人口三十萬人に達せんとする現在に於て下水道の擴張は急務中の急務に屬せる問題なので兩三年來より關係者に於て調査研究中であるから早晚具體的なものとなること、信じて居る。

## 十一、公園

本市の公園施設は尙擴張し改良を要する點が多く現在之が調査研究を遂げて居る。

現在本市の公園は左の三公園である。

### 比治山公園

本公園は純然たる山林公園で市内段原町に在る、其の山容恰も虎の臥したる如き形をして居るので臥虎山の別稱がある、元國有林であつたのを明治三十一年八月本市の公園とするの允許を得たのであるが其の面積は十六萬四千餘平方米であつて満山老樹蒼鬱として風景最も閑雅なるを以て知られ山嶺は眺望浩濶にして克く全市を双眸に收めることが出来、南方遙に廣島灣を望み宇品、江波の風物を指摘することが出来る、山の北嶺は之を開いて平地とし舊御便殿及 大正天皇御即位大典記念館を建設し又山上北西に櫻花を植ゑ陽春開花の候には花を賞し銷夏林間の清風に一日の汗を忘



比治山公園の一部

れ、紅葉秋月を詠むの候には杖を此の地に曳く者跡を絶たず満山銀を敷き連樹雪に憫むの風情に至つては蓋し他に其の比を見ない所である。

昭和三年行啓記念事業として公園路改築の工を起し園内御便殿連繩柱の所より蜿々多聞院下に至る道路がそれであつて其の他に廣場及陸橋、兒童遊園地の設備も整へられたのである。

同公園内には陸軍墓地及頼氏の墓所等もあり近く頼山陽先生顯彰の山陽文徳殿建設の計畫がある。

### 江波公園

も比治山公園と同じく明治三十一年本市の公園とする允許を得たもので市内江波町に在る、面積三萬四百餘平方米であつて全山古松鬱茂し殊に三方を海に繞らし山嶺の眺望最も爽快

を極め明治三十六年より一般に縦覧させること、  
したのである、而して年々改良を加へ梅、櫻其の  
他の花卉を植栽し漸次公園としての面目を整へ現  
在に至つたのである。

**大芝公園** 本公園は市内三篠町の東端太田川  
の清流に沿ふ堤防數町の間に在り面積三萬二千七  
百餘平方米にして櫻花の候を以て克く知られて居  
る。

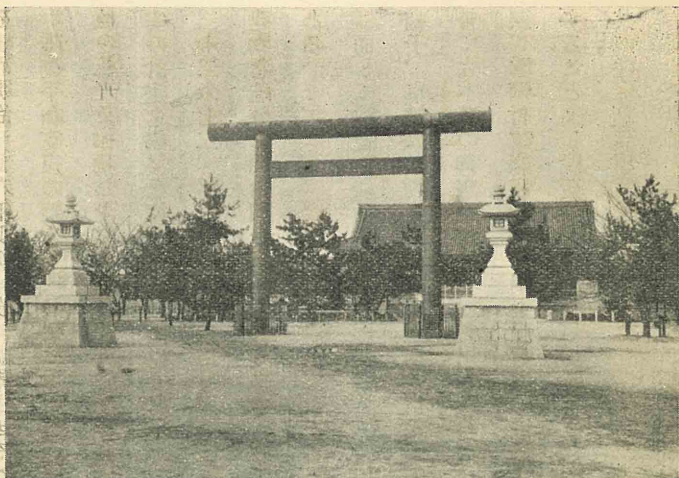
## 十二、公會堂

本市現在の公會堂は延坪千七百七十二平方米一で  
木造二階建である。

明治四十三年四月會社經營であつたものを買収  
し經營することとなり現在一箇年間の利用者數は



大芝公園の一部



舊御便殿

四百十二人である。

而して利用者は年々増加し現公會堂は狹隘にし  
て到底其の用充分でなく早晚之が改築を實現させ  
べく目下調査研究中である。

## 十三、舊御便殿及 記念館

舊御便殿は日清戦役の際、畏くも大森を本市  
に進めさせ給ひ尋で第七回帝國議會を本市に召集  
せられ、明治天皇親しく西練兵場に於ける假議  
事堂に臨御あらせ給ひし際其の御便殿に充てさせ  
給ひし所にして桁行二十米四五、梁行九米〇九で  
ある、其の用材は松杉、屋根は枡葺、天井は綾織  
白金巾張、四壁は板塀の面に白金巾を蔽ひ三ツ割

の青竹を縦横に打着け最も素朴な建造物である。

戦後平和克復の曉本市に於ては本市の一大記念物として之が拂下を請ひ許されて比治山公園に奉安の計畫を樹て公園北巔に地をトし宮殿型の桁行三十二米七二、梁行十二米七二用材梅白木の上覆建物を造營し明治四十二年十月竣工を告げたのである。

而して建造物竣工前に御眞影及當時御常用の御椅子、卓被竝敷物を御下賜あり尙大正元年十二月嘗て大本營の御座所用として差出されし金屏風一双、雪洞付燭臺四箇の寄附を受け共に殿内に奉安することゝし殿苑の鳥居竝提灯掛(提灯共)、眞神其他(鉾杆幡旗付)等は

明治天皇御大葬の際造成あらせられたるものを



記念館

本市に御下賜を請ひ鳥居には銅板を覆ひ此の地に奉安したものである。

本市に於ては之が奉安警衛の爲守衛をして常時奉仕せしめて居る。

**御即位大典記念館**

は大正天皇御即位大典の際奉祝記念として造營せられた建造物である。

大正四年十一月工を起し同七年十二月竣工した繪馬堂式平家建で、大祭祝日の際市民の遙拜所として居る。

## 十四、社會事業

社會事業は所謂社會的に不幸なる人に對する保護救済及福利増進を目的とする事業であるが、本市に社會課が設置せられたのは僅に十一年前の事であり従て社會事業施設には尙幾多改善進歩を圖らねばならぬ點が少くないが現在着々其の機能を發揮して社會事業施設の爲に遺憾なきを期して居る。

本市社會課所管の社會事業施設を列記すれば次の通である。

**職業紹介所**

本市の職業紹介所は昭和二年四月廣島社會協會の經營して居た中央、東松原、宇品の三職業紹介所を移管經營開所したのに始まり同時に宇品紹介所を廢して職員を兩所に各三名を配し

大いに内容充實を圖り一般職業紹介事務を採らせることゝした。



而して兩紹介所の一箇年間(昭和七年度中)に取扱ふ紹介件数は求人一萬四千九百九十六件(男六千四百四十件、女八千七百五十六件) 求職二萬二千二百二十件(男一萬四千七百七件、女七千百十三件)にして其の内紹介に依り就職せる者は四千九百八十四人(男二千七十七人、女二千九百六十七人)で求職者の約二割二分強に當る。

兩紹介所共に現在民家を借家して居るので甚だ狹隘にして充分に其の機能を現すことが不可能の状態にあるので目下之が建築の計畫を樹て建築費三萬五千餘圓を計上し早晚工事着手の運びに至らんとして居るので竣工の曉には各種紹介部門を分ち大いに活躍せんことを期待せられて居る。

尙社會課所管外に私設(無料)職業紹介所が一箇所ある。

#### 失業應急事業

本事業は失業登録者の労働紹介並労働賃金立替事務を目的とし失業対策として最も現實的の効果を擧げつゝあるが之が取扱機關として特に日備労働者紹介係を設けて之に當らしめて居る、而して之が救済事業は昭和五年度より同八年度に至る繼續事業として第三期水道擴張工事が昭和五年五月より始められ其の事業豫算額百七十八萬三千七百七十五圓である。

次いで昭和六年度に於て第一次失業應急事業道路改築工事に着手せられ其の事業豫算百十萬六千六百十四圓(内勞力費二十二萬六千四百三十六圓)更に昭和七年度に第二次同八年度に於て第三次の各

失業應急事業として道路改築工事が續行せられ事業豫算合計五十七萬八千八百八十八圓が計上せられ一年殖え來る失業者に對して居る。

尙本市所管外に内務省國道改良工事、縣道改修工事等失業救済の爲の土木事業が施行せられ何れも本市の失業登録者が使用せられて居る。

#### 託兒所

は少額所得者の幼兒(三歳以上學齡期迄)を晝間保育するのを目的として居る。

本市の經營する託兒所は八箇所で昭和八年三月末現在に於ける保育幼兒の延人員は十四萬六千九百六十二人(内二託兒所は本年十月より開所したもので此の計數には無い)である。

尙本市社會課所管外の公私設託兒所數は現在十三箇所である。

#### 隣保館

は大正十三年二月社會教化と融和事業施設の必要を認め市内尾長町及福島町の東西二箇所に建設せられたるものである。

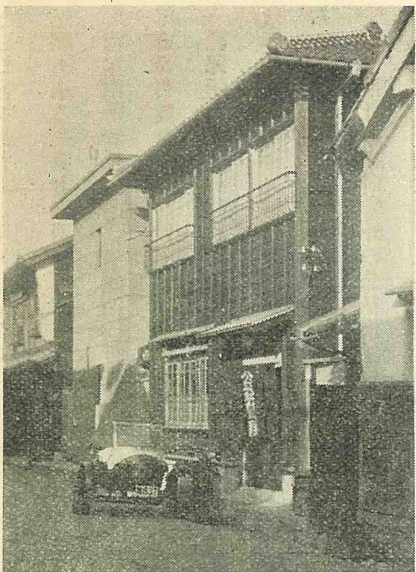
而して其の事業の主なるものは託兒、簡易圖書の閲覽所、人事相談、講演及講習等にして保健衛生上よりは住居宅の改良にも意を注ぎ地方教化に精進して居る、故に之が利用人員も年々増加の傾向あり昭和八年三月末現在に於て延人員十四萬三千二百四十二人に達して居る。

尙本市社會課所管外の隣保事業施設は宇品町に財團法人喜清會宇品學園がある。

**診療所**

は昭和四年九月少額所得者の醫療救護施設として設立せられたるもので東西に各一箇所ある、實費診療を本則として居るけれど、其の醫療費の納付を爲し得ない貧困者には之を無料として居る、診療科目は内科、外科を始とし二般醫療診斷で調劑は之をせず處方箋のみ交付して居る。

昭和七年度中に於ける診察延人員は二萬二百三十人である。  
本市社會課所管外の救療所に日本赤十字社廣島支部療院がある。



東部公益質屋

**公益質屋** 本機關も亦少額所得者に

對する比較的安全且簡易なる金融機關で昭和五年十二月東西に各一箇所設立せられ後現在の場所に建設せられたものである、執務時間は午前八時より午後九時迄とし貸付金額一口に付十圓以上一世帯五十圓を限度とし利率は一箇月百分の一、二五、流賃期間を六箇月とし特別の事由ありと認めたるものは之を延長すること

として居る。

昭和七年度中に於ける貸付金額は六萬一千八百一圓、辨濟金額六萬四十一圓にして流賃二千六圓となつて居る。

**市營住宅**

住宅問題は歐洲大戰後人口の都市集中化と住宅難との結果住宅補給と都市衛生の維持改善及最近に至つては家賃の低廉化の爲に大正十一年六月より同十五年七月迄に低利資金十八萬圓を借入れ八十六戸を建築し其の目的の一部を達成したのであるが昭和五年四月時代の趨勢に鑑み一律に約二割方の家賃値下を行ひ益々所期の目的に向つて進んで居る。

而して之と併行して住宅補給解決の一助として住宅建築組合の設立を指導獎勵し現在にては三十組合、二百九十八人の組合員がある。

**保養院**

本市に於ける行旅病人、行旅死亡人、精神病並救護法に依る救護收容は從來私設機關に委託して之が救濟を爲して居たが、救護法實施と共に其の施設の必要を認め昭和八年度に於て救護法に依る醫療並助産救護を目的とする保養院を建設する爲に經費豫算八萬四千七百餘圓を計上して施療救護の目的を達せんとし之が實現を期して居る。

其の他本市より相當額の補助金を助成して經營をして居る私設社會事業團體があり其の主なるもの

は養老事業一、乳幼児保育事業一、育兒事業三、隣保事業一、授産事業二、宿泊救護事業一、其の他の社會事業二、等がある。

## 十五、都市計畫

産業の發達に伴ふ人口の都市集中は近代都市共通の現象である。

都市計畫は都市の完全なる發達及合理的なる發展向上を期する上に於て最も重大なる現在に於ける各都市共通の都市問題の中心を爲して居る。

本市は大正十二年七月都市計畫法の施行と共に一大都市計畫を企圖し漸次之が具體的進展を計つて居る從て之が實現の上は交通、保安、衛生、經濟上に及す市民の福利増進は實に偉大なるものがあると思ふのである。

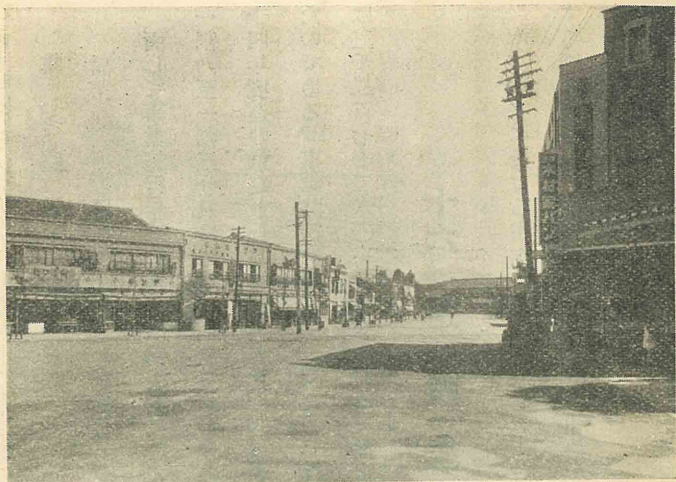
**都市計畫區域** 現在の廣島市の全地域を以て其の區域と爲し大正十四年一月決定したもので其の面積は六千九百八十八萬四百二十四平方米である。

**地區** 本市に於ては市街地建築物法に據る地區の指定は現在のところないのである。

**地域** 都市の分業的組織に依り商業地域(概ね市内中央部)、工業地域(市内東部及南部、北部の

各一部)住居地域(概ね前記商、工業地域を除きたる部分)に分つたもので昭和二年六月二十九日指定せられたのである。

**街路網** 街路計畫に定められた路線は二十九線であるが財政上の見地より一時に之が工事に着手することを許されない状態にある現在に於て財政の許す範圍に先づ海陸交通連絡の建前より廣島港と廣島驛との船車連絡及近郊新開地と中央部との交通連絡を圖り且新開地に街路の根基を示し區劃整理の施行と相俟て亂雑不整な市街地を未然に防止する等緊急缺く可からざる路線を選び事業費八百六十六萬圓を以て昭和四年度より十箇年度繼續事業として計畫し同五年三月認可を得たものである。



鷹野橋附近より千田町通を望む

事業施行に決定の街路竝幅員其の他は次の通である。

事業路線	十三線
幅員	二十六米乃至十五米

而して事業施行年度割予定は初年度に於て總工事の約一分次年度五分、三年度より第十二年度間は一割乃至一割五分及最終年度に於て約六分の割合に依り起工せられたものであるが一箇年延長し昭和十四年度迄の豫定とし、之が事業費も追加更正せられて事業費總額千三百七十一萬九千七百圓となつたのである、事業路線の延長は一萬九千七百八十二米七三にして現在迄に一部竣功したる路線の延長は三千二百七十二米〇一であつて尙着々豫定年度割通に工事の進捗を計るべく努めて居る。

### 十六、道路事業

本市現在に於ける主なる道路事業は都市計畫に依り企圖せられて居るもの、他に都市計畫道路に對する補助道路として道路改修及舗装工事事業があり何れも主として失業應急事業として施行せられて居る。

而して失業應急事業の擴張、舗装工事の延長及幅員は次の如きものである。

擴張工事	延長	六、〇一五米五四
	幅員	九米乃至五米四五
舗装工事	延長	二五、一八二米一〇
	幅員	九米乃至六米三六

以上は第一次及第二次事業工事であるが更に第三次第四次と順を追ふて事業は繼續して行はれるので早晚本市の道路は面目を一新することゝ信ずるものである。

尙現在市内に於ける道路別は左記の通である。

國道	延長	一一、八七五米
	面積	六九、九七七平方米
縣道	延長	三五、〇五三米
	面積	一六六、〇四四平方米
市道	延長	六七六、七一〇米
	面積	一、五六六、九八五平方米
計	延長	七二三、六三八米
	面積	一、八〇三、〇〇六平方米

## 十七、整地事業

五六

道路の幹線は都市計畫に依り決定せられて居るのであるが其の支線等に至つては未だ具體的のものなく従て是等に對しては土地區劃整理組合の設立に依り解決を圖るべく郊外地方面に對し該組合の設立を奨勵して居るのである。

現在に於て造成せられたる、區劃整理組合の道路敷は十八萬八百四平方米餘にして、將來着手せられんとする區劃整理組合の道路敷は二十七萬三千八百九十二平方米餘であつて、區劃整理組合が自ら計畫路線を造成して之を本市に無償提供すれば其の面積約四十五萬四千六百九十六平方米となるべく従て郊外計畫路線の大部分は市費を要することなく數年間に實現することとなる。

本市は益々該事業の發展を希望し之が助長奨勵に努めて居る現在組合敷は六である。

## 名所舊蹟

**大本營址** 日清戰役の際、明治二十七年九月十五日 畏くも大森を此の地に進めさせ給ひし時行在所に充てさせ給ひ翌年四月二十七日迄萬機を統へさせ給ひし遺跡にして舊廣島城本丸址即ち第五師團司令部であつた建物をそのままに御利用あらせられ其の調度の御質素なること拜觀者をして襟を正さしめ感激に咽ばしむるものがある。

現在廣島縣の管理に屬し監視警護を嚴重にして一般人に拜觀を許して居る。

里程は廣島驛より約二千五百米あり。

**廣島城址** 天正年間中國の豪族毛利輝元の築城に係り後福島正則を経て元和五年淺野長晟紀伊より此の地に城を給はり入城し現在淺野侯に至る迄十貳代二百五十有餘年に及んで居るのである。

現在に於て舊態を存するものは天主閣と城廓の一部のみとなつて居る、天主閣は五層にして東西二十二米、南北十六米にして、高さ三十三米巍然として冲天に聳えて居る。

別稱を鯉城と謂ひ昭和三年十月より一般人の觀覽を許して居る。

里程は廣島驛より約二千五百米あり。

五七

**縮景園** 市内上流川町に在つて元和五年  
淺野長晟入國の翌年造成せし庭園であつて別稱を  
泉邸と謂ふ。

園景の全部を支那西湖に模したりと謂ふので縮  
景園の名がある。

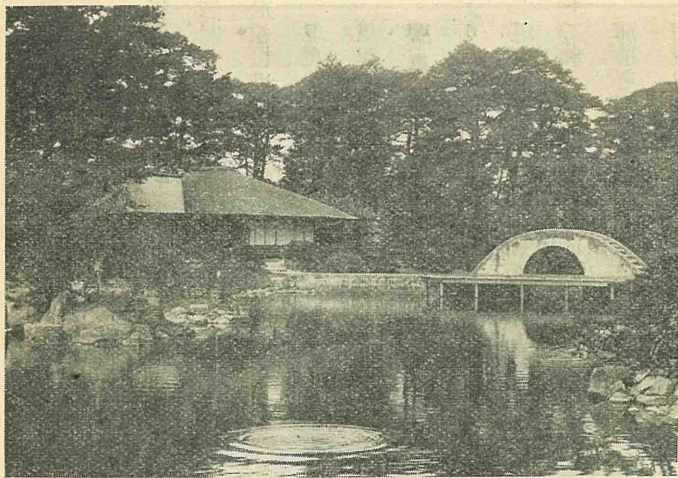
面積三萬九千六百六十九平方米であつて雅趣に  
富み明治二十七年 車駕行幸あらせ給ひてより屢  
々高貴の方を御迎へ申した所である。

尙園の西南隅に觀古館あり淺野家の家寶を陳列  
して一般の觀覽に供して居る。

里程は廣島驛より九百八十二米あり。

**饒津神社** 市内大須賀町二葉山麓に在り、

天保六年安藝守淺野齊肅公祖先追孝の意を以て造  
營せられしものにして太祖淺野長政夫妻及幸長、



縮景園

長晟公を祀る、境内敷地二萬一千八百八十八平方米あり結構宏壯にして西に神田川の清流を控え背後に  
綠樹鬱蒼たる二葉山を負ひ頗る雅致に富む、明治五年二月縣社に列せられて居る。

里程は廣島驛より約千三百米である。

**國泰寺** 市内小町に在り宗派は曹洞宗にして僧惠瓊の開基にかゝり文録年間朝鮮木を以て建

立せりと謂ふ、後二度の祝融に遇ひ舊態は存ぜざるも尙結構壯大なるものあり、境内に豊國神社並豊  
公遺髪之塔及淺野侯數代の墓標、赤穂義士大石良雄の室石束氏及三男大三郎の各墓石が在る、寺内に  
天然記念物として指定されたる樟三樹あり。

里程は廣島驛より約二千七百五十米あり。

**官祭廣島招魂社** は現在市の東北二葉山麓饒津神社の境内西隅に在り。

神靈は維新より明治十年戊申の役に至る迄の皇國の爲獻身したる七十八柱の英靈を奉祀せる社殿に  
して其の規模小にして護國の靈を祭るに極めて貧弱なるを以て現在之を遷祀するを企圖し本市西練兵  
場西南に清淨なる神域を定め建築費豫算二十萬圓を以て社殿建築の計畫を樹て居る。

之が竣功の曉は明治十年以後現在に至る迄護國の鬼と化したる三千餘柱の英靈を合祀することゝし  
て居る。

神苑は太田川の清流に臨み老松灌木を以て蔽ひ神嚴なる小公園化せしめんとして居る。  
里程は廣島驛より約二千三百米あり。

**頼家の墓** 本市比治山公園の麓多聞院丘上に在り、一世を指導し維新回天の大業の源を成したる日本外史の著者頼山陽先生の嚴君春水、叔父杏坪、母堂梅颯、長子聿庵其の他一族二十基の墓標がある。

里程は廣島驛より約千七百米あり。

尙市内袋町に頼山陽先生舊宅の遺跡がある。

里程は廣島驛より約二千七百三十米あり。

**千田貞曉男銅像**

廣島港頭より北上千米の小園に屹然直立する銅像こそは廣島百年の計を一身に負ひ不撓不屈、初志の貫徹に邁進し大廣島築港完成を遂行せられし時の縣令千田貞曉男爵である。

廣島港が日清戦役以後幾多外征に際し皇軍の策源地として國家に貢献せることは既に世に多く知られたるところであつて其の功績かゝつて千田男爵にありと謂ふきである。

里程は廣島驛より約四千八百米なり。

廣島近郊名所

最寄驛所港灣	起點	距離	賃金	備考
佛通寺	廣島驛	六・九 <small>軒</small>	〇・七	本郷驛ヨリ約二里自動車便アリ
福王寺	廣濱線 可部驛	一三・八	〇・三	可部驛ヨリ約一里半自動車便アリ
安藝ライン	同 同 同	一三・八	〇・三	同 同 同
郡山城址	廣島驛	四九・三 <small>軒</small>	一・〇	吉田口驛ヨリ約一里（乗合自動車連絡賃金ヲ含ム）
尾關山公園	同	七二・〇	一・七	三次驛ヨリ約二十町自動車便アリ
帝釋峽	同	九〇・五	二・三	備後庄原驛ヨリ約四里
三段峽	同	一六〇・〇 <small>里</small>	二・〇	鐵道自動車連絡往復四圓五十錢
瀧山峽	同	二〇〇・〇	二・〇	往復二圓八十錢（柴木椽床間片道連絡自動車賃ヲ含ム）
天徳峽	同	二〇五	一・六	加計町ヨリ峽谷入口迄約一里自動車便アリ





4184  
31830

4185  
31836  
1

Handwritten text in a vertical column, possibly a list or index.



10  
文書館